

8 名古屋港・三河港の整備促進について

(財務省、国土交通省)

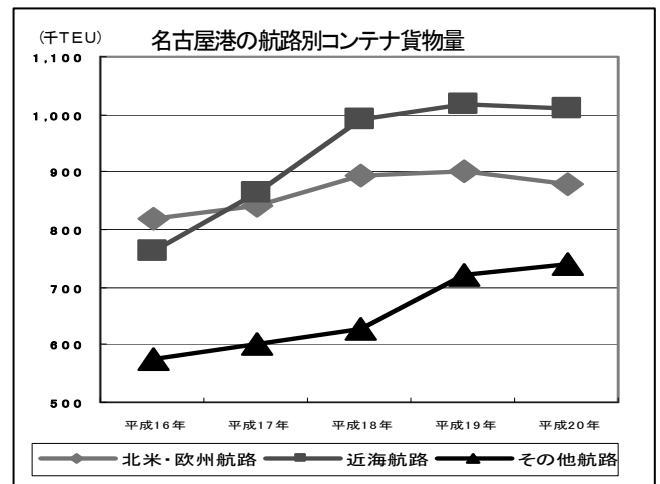
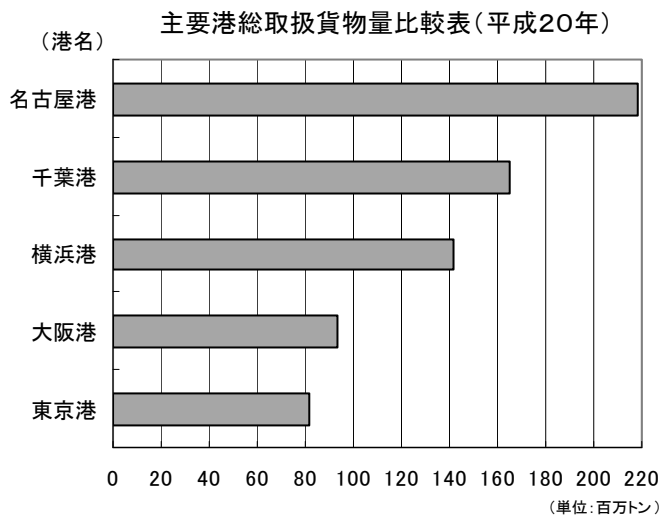
【提言の内容】

- (1) 日本の国際競争力に大きく貢献している名古屋港を公平・公正に評価し、引き続き重点的に整備すること。
特に、スーパー中枢港湾のモデルバースである飛島ふ頭南側コンテナターミナルの更なる機能拡充と、アジア・中国物流に対応した耐震強化機能を有する鍋田ふ頭コンテナターミナル第3バースの整備促進を図ること。
- (2) 三河港について、自動車輸出入等に対応する、蒲郡地区の岸壁（－11m）を始めとした多目的岸壁の整備を促進するとともに、特定重要港湾への昇格を図ること。

(背景)

- 平成21年10月、国土交通大臣は、国際的な競争力を持つ拠点港湾(ハブポート)育成のため、本年度中にも対象の港を募集する意向を示し、選定については、概算要求が認められた段階で、我こそはという港の中から公平な基準で選ぶ意向である。
- 本県には、自動車、工作機械、航空宇宙など世界的な「ものづくり産業」が集積しており、製造品出荷額等は、1977年以来、連続して全国1位である。それを支える名古屋港は、総取扱貨物量、貿易額、貿易黒字額において日本一を誇るなど、ものづくり中部のみならず、我が国の経済を支え、牽引してきた。名古屋港の機能強化がなければ、我が国基幹産業の国際競争力の低下を招くこととなる。
- 名古屋港について、コンテナ貨物量の増加やコンテナ船の大型化に対応した港湾施設の整備、中国を始め経済成長の著しいアジア地域との物流に対応した港湾施設の早期整備が必要である。また、大規模地震に備えた耐震強化岸壁の整備も急務となっている。
- 三河港は、多くの外資系自動車企業が立地するなど、その機能と将来性が国際的にも評価されており、地域再生計画（国際自動車産業交流都市計画）の認定及びリサイクルポートの指定を受けるなど、我が国の経済活動を担う港湾としてますます重要性を増し、さらなる発展が期待されている。

(参 考)



■三河港神野西ふ頭 多目的国際ターミナル(豊橋市)

■同蒲郡ふ頭 自動車等取扱岸壁 (蒲郡市)